

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	環境調査員活動事業	会計	一般会計	事業No.	336	施策順No.	54-004
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-5-15-2		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	54 自然とのふれあいと環境学習の推進			事業期間	開始	6	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	①環境調査員(環境チェッカー) ②市内に生息する指標動植物						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		環境調査員(環境チェッカー)(人)	103	103	103	110	110		
		指標動植物数	45	45	45	45	45		
意図		①環境調査員(環境チェッカー)の環境意識が高まる ②指標動植物の生息状況を把握する							
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		環境への意識が高まったとするチェッカーの割合(アンケートによる)(%)	-	51	55	60	75	70	A
		指標動植物調査報告件数(件)	525	580	456	570	574	600	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		毎年行う調査活動であるため調査手法が確立されており、調査を行うチェッカーが替わっても例年並に報告が行われている。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	環境調査員活動事業 1環境調査員(環境チェッカー)とは:平成6年度から実施しており、調査員は2年任期。各小中学校推薦の児童生徒と各地区の推薦又は応募による大人110人以内を委嘱し、市内の身近な自然環境調査活動を実施する。 2 チェッカーの行うこと:(1)指標動植物(45種)について市内の生息調査を行って生息状況を把握し、環境課に報告。(2)上記以外の市から依頼される調査について報告。(3)市の行う学習会等に参加。 3 市の行うこと:(1)指標動植物(45種)を定めチェッカーによる市内の生息調査を行って生息状況を把握し、調査結果を環境保全活動などの資料として活用。(2)随時自然観察会や環境学習会を開催し、チェッカーの環境保全意識の高揚を図る		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 環境調査員(環境チェッカー)による指標動植物調査の実施 2 環境調査員は市で指定した指標動植物について姿や初鳴きを確認したら記録し、年3回(7月末、10月末、1月末)報告。 3 調査活動の正確性をより高めるため、事前に調査員に対して調査活動を行うにあたっての研修を行う 4 環境調査員のレベル向上につながる自然観察会(里山観察会、巨木・名木観察会、水生生物観察会)や環境学習会などを開催を検討すると共に環境に関する講演会等の案内を行う	1 参加者数 2 報告件数 3 開催数 4 開催数	1 220人 2 574件 3 1回 4 1回
	23年度実施計画	1 環境調査員(環境チェッカー)による指標動植物調査の実施 2 環境調査員は市で指定した指標動植物について姿や初鳴きを確認したら記録し、年3回(7月末、10月末、1月末)報告。 3 調査活動の正確性をより高めるため、事前に調査員に対して調査活動を行うにあたっての研修を行う 4 環境調査員のレベル向上につながる自然観察会(里山観察会、巨木・名木観察会、水生生物観察会)や環境学習会などを開催を検討すると共に環境に関する講演会等の案内を行う	1 参加者数 2 報告件数 3 開催数 4 開催数

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	特定財源	国庫支出金				
		県支出金				
		起債				
		その他				
	一般財源		453	437	430	
	計(A)		453	437	430	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
	トータルコスト A+B			437		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 市民参加による調査活動により、身近な動植物の生息状況が判る貴重な資料であるとの意見がある。 自然観察会や学習会の参加者からは、参加して、楽しみながら地域の現状が理解できて良かったので、継続して実施してほしいとの意見がある。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	自然とのふれあいや、環境学習から環境意識が向上する	施策の成果指標又はムトス指標	自然とふれあいを持ったことがある市民の割合(%) 環境学習会に参加したことがある市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	指標動植物の調査を行うことで、チェッカーの自然の保全に対する意識が高まる。		
	後期に向けた課題	調査員へのよりわかりやすい説明会の開催と成果のまとめ方の検討。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	指標動植物調査の精度を高めることで、報告数も上がることが考えられる。そのために調査の方法が会得できる学習会や自然観察会などにより意識を高めてきた。		
	後期に向けた課題	説明会に出られない調査員、また、開催が遅かったとする調査員もいたため、学習会、説明会の開催について検討が必要。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	環境調査員には、わずかな報酬(大人年間5,000円)で年間通して活動してもらっている。現在、その経費は必要なものと考えられる。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	環境調査員の事業の成果は、飯田市の今後の施策を考える上で資料となる大切なものである。その重要性に比して市の負担は決して過大なものではない。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	調査員は学生、各地区からの推薦、応募と多様になっており、それぞれ調査を行っている。行政では学習会の開催、調査のまとめを行い、施策の参考としている。		
	後期に向けた課題	引き続き多くの主体からの参加を行っていく必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	多くの指標動植物調査が行われ、チェッカーの意識の向上も図られてきた。		
	後期に向けた課題	小中学生チェッカーなどを含め、報告を依頼する指標を45種類全て対象にして報告を求める方法から、対象の指標動植物を絞って報告を求めるチェッカーと、今まで通り、45種類の報告をしてもらってチェッカーとに分けるなど、よりよいやり方を検討して実施していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------